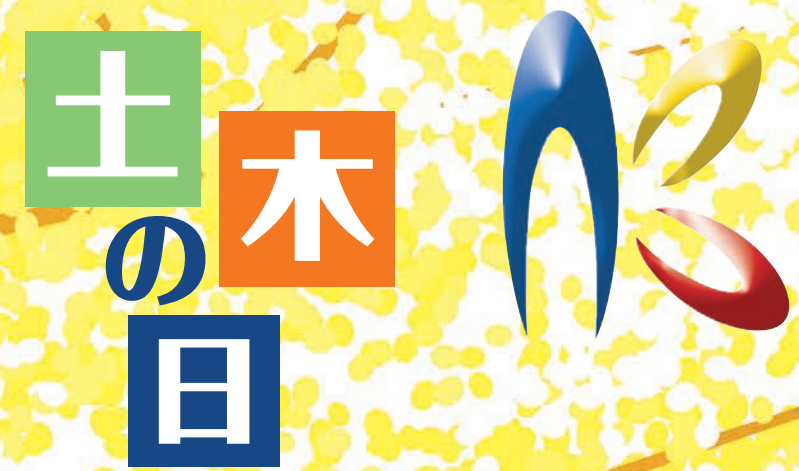




大分建設新聞 フォトコンテスト



結果発表

「土木の日、大分建設新聞フォトコンテスト」にたくさんのご応募、誠にありがとうございました。メール、Instagram、Xから応募を受け付け、高校生を含む県内外の幅広い年齢の方々から、力作が寄せられました。改めてお礼申し上げます。

11月5日、大分県建設会館にて、大分県美術協会写真部顧問の芦刈博美先生を審査委員長に迎え、厳正な審査を行いました。審査委員長をはじめ各委員も、甲乙つけがたい作品を目の前にし、選考に苦慮した次第であります。

これからも大分建設新聞社をはじめ、大分県建設業協会と同青年部会、BUILD OITA（おおいた建設人材共育ネットワーク）、大分県土木施工管理技士会では、建設関連産業の魅力発信のため、さまざまな活動に取り組んでまいります。



最優秀賞

忍耐 足場の下で

仲妻 恵理 (47)
佐々木工業(株)



①国東市安岐町
②急傾斜地崩壊対策の現場です。石像の間を縫うように足場を組み立てました。石像が完成まで耐え忍んでいる1シーンです。

③石像の周囲に足場があり、非常にめずらしい写真。普通感覚では撮影を躊躇するが、あえて撮影するという、新しさを感じる一枚。



①撮影場所または施設名
②作品についてのコメント
③審査委員長の講評

優秀賞

何ができるの？

佐藤 衣代 (60) / 一般



①大分市富士見が丘
②公園の中に建てられた現場シートの隙間から、中の様子を興味津々に覗き込んでいます。

③写真を見ただけで、タイトルが浮かび上がる一枚。子どもは中の様子が気になるもの。それを切り取る力がすばらしい。影の映り込みもあり、最優秀賞と引けを取らない。



大分県建設業協会会長賞

河川改良工事

杉瀬 豊 (79) / 一般



①大分市竹中
②河原内河川プールへの道路の一部が狭く、交互通行の状況ですが、河川改修と道路拡張工事の実施で、夏場のプール利用者が安心して通れるようになります。

③工事の様子を捉えた貴重な写真。安全安心な道路ができることで、地域の賑わいができる。写真自体の完成度も高い。



大分県建設業協会青年部会長賞

受け継がれる建築の美

野村 和馬 (29)
㈱野村建設

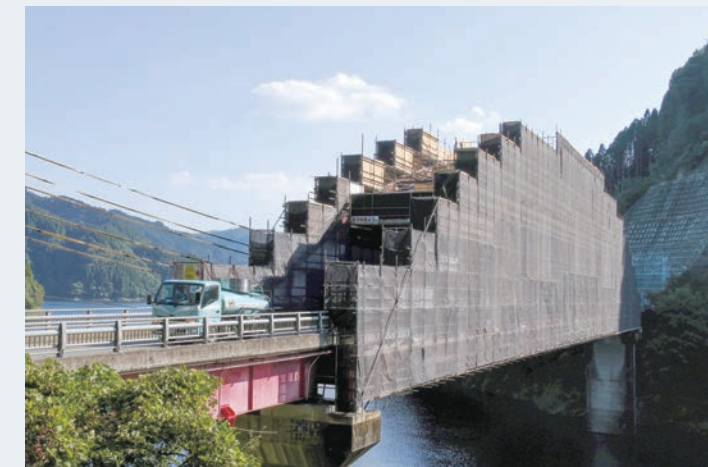


①グランヴェルデリゾート (別府市)
②弊社の新築現場での一枚です。1級建築士から若手2級建築士へのアドバイスシーンが、なんだかグッときました。こうして技術や美観は受け継がれ、建築の歴史となるんだなと思いました。

③若い建築士のヘルメットから見える顔が、よい雰囲気を出している。若い人たちが頑張る姿と後ろの建築物の姿がマッチしている。



佳作



マジンガーな橋

山根 淳市 (71)
一般

①日田市の下釜ダムにかかる橋
②橋の修復工事だと思いますが、まるでマジンガーのような重装備で、圧倒的な存在感がありました。

工事はチームワーク

山口 和博 (71)
一般

①大分川舞鶴橋下流
②大分川河川敷の工事では、それぞれの仕事を役割分担して、チームワークで効率よく進めています。



一指入魂、安全への誓い

衛藤 ひとみ (46)
㈱ラックワイド

①由布市庄内町
②作業場所が狭く暗い場所だったため、「全員で力を合わせて頑張ろう」「そして、ケガには気をつけよう」という気持ちを込めて撮った一枚です。掛け声は「ご安全に！」です。



青と無機質のコントラスト

首藤 栄樹 (53)
㈱友岡建設

①竹田市の玉来ダム
②竹田市の豊かな自然の中に無機質なコンクリートの構造物。コントラストが印象的です。測量に励む若き力が、これから成長していく姿も楽しみです。



僕のかっこいい師匠

小川 翔 (32)
㈱トラストテック

①由布市庄内町長野
②別会社（元請けの方）ですが、僕の師匠がかっこよく、操らせてもらった一枚。師匠のような重機乗りになりたい！



BUILD OITA 会長賞



街のイルミネーション

高倉 咲工 (18)
大分工業高等学校

①大分市南春日町付近

②夜に散歩をしていると、家の近くで建設していたマンションが完成していました。そのマンションの壮観なイルミネーションがきれいだったので、写真を撮影しました。

③雨上がりのマンションを、きれいだと思えるセンスが良い。雨上がりや夜は出たくない状況だと思うが、そのような中にも、とっておきの一枚がある。



BUILD OITA いいね賞



矢の軌跡が結ぶ伝承

中村 紗也佳 (21)
熊本県立大学

①別府市のヶ沢公園

②朝露に包まれた静かな時間帯。鎮西八郎為朝の矢の伝承を宿すヶ沢。鉄のアーチと水面の映り込みが、歴史の軌跡と現代の憩いを重ね合わせる瞬間を描いた一枚です。

③朝露の中、建物と曲線が織りなす姿が、よい雰囲気を出している。幻想的な写真である。

総評



審査委員長 芦刈 博美（大分県美術協会写真部顧問）
1次審査から関わったが、今年の写真は良い写真ばかりであった。入選作は感心せざるを得ない。絵になる風景を見た時、「ハッ」と感じ、シャッターを押すことが大切。日頃から、被写体を見る目を養い、「ハッ」と感じ、カメラやスマートフォンを向けてほしい。

BUILD OITA 会長 深水 理恵
（大分工業高校土木科主幹教諭）
大変レベルが高く、選ぶのも大変だった。一般の方から建設に関わる人まで、さまざまな視点を通して見る風景に、心が打たれた。これからも建設業の魅力発信の取り組みを継続していく。

応募点数：84点（メール・X・Instagram）
※10月27日朝の時点で確認できた合計数
・審査
第1次：10月27日 第2次：11月5日
・第2次審査委員
深水 理恵（BUILD OITA 会長）
浦辺 裕二（大分県建設業協会専務理事）
BUILD OITA 事務局
（大分県建設業協会・大分県建設技術センター）
川邊 伴子（㈱大分建設新聞社代表取締役）以上9人。